

放っておくと危ない！ 気になる症状

変なセキが続く…

今日は咳にまつわるお話です。

3歳になったK君は少しかぜをひいたようです。夕方から咳をし始めました。「のどが少し痛い」と言って、晩ご飯

もあまり食べませんでした。布団にもぐったくらいから熱

が出始め、咳がだんだん増えてきたと思っていたところ、お

かしな咳をし始めました。こもったような、響きのある、まるで犬が吠えているような咳

です。変な咳をするようになったなと思っていたところ、

K君は起き上がり、顔を真っ赤にしてゼーゼー言い始めま

した。息がひどく苦しそうで、息を吐くのも吸うのも難

しそうです。よく見ると息を吸うたびに顔を上げ、喘

鳴がしています。熱も39℃を

超えています。慌てた両親

は、救急車で救急病院へ連れていきました。医師は顔を見たり、吸入を指示。吸入でようやく息ができるようになってきました。

診断は「クループ」でした。

クループはほとんどウイルス

による感染症です。「かぜ」

の仲間ですが、「かぜ」は鼻

のどに炎症が起きますが、ク

ループは少し下の喉頭とい

ところで、詳しくいうと声を

出す声帯から声門下部に炎

症がおき、そこがむくんで狭

くなり、結果として息ができ

なくなる病気です。とくに息

を吸うことが難しくなりま

す。たいていは前述のような急

激な発症で、最悪の場合は窒

息する恐れもありますので、

緊急受診が必要になります。

治療はむくみをおさえるため、エピネフリンの吸入。ス

テロイド・ホルモンの吸入や内服を行います。3歳以下の子どもがかかりやすく、冬によく見られます。ウイルス

感染ですので、抗生物質は効きませんが、よく似た病

気にインフルエンザ桿菌による喉頭蓋炎という病気があ

り、こちらはなるべく早く抗生物質を投与することが重

要ですので鑑別が必要ですが、こちらも急激な経過で

命に関わりかねない病気で

ですので、やはり緊急受診の対象になります。多くの場合、

ピークは1〜2日で終わりますが、咳は数日続きますので注意が必要です。

K君は吸入が終わったあと、ステロイド・ホルモンと去痰剤と解熱剤をもらって帰宅しました。

佐伯地区医師会

わき小児科医院

脇千明